

指標確認シート

【基盤形成期】



愛媛県総合教育センター

—目次—

観点	キーワード	ページ
人間力	学び続ける向上心	1
	使命感・倫理観	2
	豊かな人間性	3
	人権感覚・人権意識	4
	識見・教養	5
	心身の健康	6
実践的指導力	省察力	7
	教科等指導力	8
	ICT 活用能力	9
	学級経営力	10
	生徒指導力・教育相談力	11
	特別支援教育実践力	12
	えひめ人材育成力	13
組織力	組織貢献力	14
	学校安全の意識・危機管理能力	15
	協働性・同僚性	16
信頼構築力	対人関係力	17
	地域と連携・協働する力	18

「学び続ける向上心」

社会環境の急速な変化、学校を取り巻く環境変化、大量退職・大量採用による年齢、経験年数の不均衡による弊害等により学校が抱える課題は多様化・複雑化しています。社会や国の変化を踏まえ、教員が高度専門職としてそれらの課題に対応していくためには、学び続ける向上心を持ち続けることが必要です。

基盤形成期

～

資質・能力発展期

指標

常に目標を持ち、その実現に向けて、学び続ける。

社会の進歩や変化のスピードが速まる中、子どもたちの生きる力を育むためには、教員は教職生活全体を通して、自主的に学び続ける力が必要です。そのためには、年齢や経験年数に関わらず、自分で課題を見付け、常に新しい目標を持ち、課題を解決しようとする姿勢が重要です。

〔具体的な姿〕

- 社会、環境の変化を的確につかみ取り、それらを踏まえた適切な教育活動を実践している。
- 校内、校外研修など様々な研修の機会を活用したり、自主的な学習を積み重ねたりしている。
- 学校内において、同僚の教員と支え合いながら、OJTを通じて日常的に学び合っている。
- 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善等、新たな教育課題に取り組んでいる。
- 資質・能力向上のため、長期目標や短期目標を設定し、その目標達成に向けPDCAサイクルを機能させている。



◇自分の姿を振り返って

〔A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない〕

項目	月日 /	月日 /	月日 /
キャリアステージに応じて求められる資質・能力を理解している。			
自ら学ぶ姿勢を持ち、授業改善や教育課題の対応に向けて、研修等に取り組んでいる。			
適切な目標設定を行うとともに、実践、評価、改善を通して、自らの資質・能力の向上に取り組んでいる。			

「使命感・倫理観」

教員は、教育公務員として「全体の奉仕者」であり、高い倫理観が求められます。また、教育基本法で、「法律に定める学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。」と定められているように、教育の目的の実現に向け、全ての教員が教育者としてのあるべき姿を深く考え、強い責任感を持って職務に当たることが求められます。

基盤形成期

～

資質・能力発展期

指標

使命感や責任感を持って教育活動に取り組む。

教育公務員として法令を遵守し、職務を遂行する。

教員は、児童生徒の人格形成や人生の在り方に大きな影響を与えます。このことに対する情熱と使命感、強い責任感を持つことは、教員にとって不可欠な資質です。児童生徒に愛情を持って接し、適切な言動が常にできるよう、教員としての自己の在り方を見つめていくことが必要です。また、児童生徒や保護者、地域からの信頼を得る上で、法令を守り、児童生徒の手本となるような規範意識を持つことも大切です。

[具体的な姿]



- 児童生徒の人格形成や人生に大きな影響を与える仕事であるという使命感と強い責任感を持っている。
- 教職への情熱を持つとともに、客観的に自己を見つめ、教育者としてのあるべき姿について深く考え、自己研鑽をしている。
- 公平かつ愛情を持って児童生徒と接するとともに、一人の大人として、児童生徒の手本となるような言動をしている。
- 教育公務員としての職務上の義務と身分上の義務を遵守し、規範意識を持って職務に当たっている。

◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項目	月日 /	月日 /	月日 /
教職への情熱を持つとともに、自らを客観視し、理想的な教員像の実現に向け、自己研鑽をしている。			
愛情を持って児童生徒と接し、児童生徒の手本となるような言動をしている。			
教育公務員として、「すべきこと」「してはならないこと」を明確にし、職務に当たっている。			

「豊かな人間性」

愛媛県は、求める教師像として、「子どもが好きで、未来を担う子どもたちを育成しているという誇りと気概を持って教育に当たることができる人」、「愛顔（えがお）にあふれ、あいさつを大切にしている人」、「仕事にも人にも誠実に向き合う人」の3点を挙げています。学校教育を巡る様々な課題への対応のために、優れた資質・能力を備えた魅力ある教師が必要とされています。

基盤形成期

指標 子どもたちを魅了する豊かな人間性を持つ。

「教育は人なり」といわれるように、学校教育の成否は、教師の資質・能力に負うところが極めて大きいと言えます。教師は、子どもたちの人格形成に関わる一人の人間であり、普段の態度や言動は、児童生徒に大きな影響を与えます。常に自己の人間性の向上を目指すとともに、日々の教育活動を通して、自分自身の生き方や人間性をしっかりと示すことが大切です。

【具体的な姿】

- 人を育む立場であることを自覚し、子どもと一緒に遊んだり、談笑したりすることに喜びを感じることができる。
- 子どもたちとの約束をきちんと守り、一人一人の子どもに寄り添い、受け入れ、信頼関係を築くことができる。
- 教育に対する熱意を持ち、教師の姿そのものから、子どもたちに安心感や尊敬の気持ちを与えることができる。
- 日々の教育活動を通して、児童生徒に「先生のような大人になりたい」と思わせたり、憧れを持たせたりするような行動ができている。



◇自分の姿を振り返って

【A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない】

項目	月日 /	月日 /	月日 /
児童生徒を、一人の人格を持った人間と認め、真摯に向き合っている。			
児童生徒の心をきちんとつかみ、児童生徒との間に信頼関係を築ける力を持っている。			
一人の大人として、子どもたちにとって「尊敬」や「憧れ」を与えることのできる模範となっている。			

「人権感覚・人権意識」

学校においては、人権尊重の理念を全ての教育活動の基礎におき、進路を保障する教育の実践、同和問題学習をはじめとする様々な人権学習の推進及び仲間意識に支えられた集団づくりを通して、人権の確立と差別解消に向けた児童生徒の実践力の育成が求められています。そのためには、教員自らが深い認識と実践力を身に付けていくことが大切です。

基盤形成期

～

資質・能力発展期

指標

多様な価値観を尊重し、常に人権感覚を磨くとともに、人権意識を高め続ける。
人権問題に対する正しい理解や認識を深め、問題解決への確固たる姿勢を確立する。

全ての教職員が、差別の現実深く学ぶことを基本理念とし、同和問題をはじめとする様々な人権問題解決への確固たる姿勢を確立することが大切です。また、全ての児童生徒が喜びを持って参加できる学校づくりに努め、喫緊の課題である、いじめや不登校の未然防止や解決に向けて主体的に取り組む姿勢を確立することも不可欠です。

〔具体的な姿〕

- 人権・同和教育推進上の職務別の任務内容と課題を明らかにし、解決に向けて主体的に取り組んでいる
- 同和問題学習資料についての研究や分析をはじめ、研修会に積極的に参加するなど、差別解消に向けた自らの実践力を高めている。
- 教育活動において意見を取りまとめる際には、多様な考え方を受け止めながら、集団にプラスとなる解決策を模索する姿勢を大切にしている。
- プライバシーを巡る問題は、基本的人権に関わる重要な問題であると認識し、学校が保有する個人情報については適切に取り扱っている。
- 自らの発言や行動が学級や学校内の雰囲気をつくり出すことを意識し、定期的に振り返り、人権意識の高揚を目指している。



◇自分の姿を振り返って

〔A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない〕

項目	月日 /	月日 /	月日 /
学習資料の研究や分析をはじめ、研修会に積極的に参加するなどして、成果を日々の教育活動に取り入れようとしている。			
いじめや不登校の未然防止や解決に向けて、児童生徒の気になる様子や努力している姿について、同僚や保護者と情報を共有している。			
名簿、連絡網、写真の掲載、成績等、個人情報の取り扱いには十分配慮している。			

「識見・教養」


教員は教員である以前に、変化の時代を生きる社会人として必要な資質能力を十分に兼ね備えていることが不可欠です。そのため、教員は、広く豊かな教養を身に付け、社会人として適切に判断して行動することができるとともに、様々な情報が飛び交う時代で、それを正しい情報であるか判断しつつ、教育現場に反映できるような力が求められます。

基盤形成期

指標	社会人としてのマナーを身に付ける。
-----------	--------------------------

社会人としてのマナーは、教職員としてのマナーにも活かされます。態度や身だしなみ、言葉遣いなどは人に与える印象を大きく左右するので、常に意識することが必要です。また、相手の立場や気持ちを考えて人に接し、身の回りを明るく清潔に、働きやすく整理整頓することは円滑な仕事の運営につながります。

[具体的な姿]	<ul style="list-style-type: none">○ 教師として、また社会人として、TPO をわきまえた身だしなみを心掛けている。○ 保護者や地域の方に対して、時と場に応じた適切な言葉遣いを心掛け、敬語を正しく使うことができている。電話では、相手の姿が見えないだけに、一層礼儀正しく対応をしている。○ 依頼するときには「お願いします。」、事後には「ありがとうございました。」と感謝の気持ちを表している。○ 相手の立場や気持ちを考えて、誰に対しても分け隔てなく親切に、丁寧に、誠実に対応することができている。○ 仕事を円滑に進めるために机の周りの整理整頓を心掛けている。
---------	---



◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項 目	月日 /	月日 /	月日 /
社会人として、教職員として、清潔で明るい印象を与える身なりを心掛けている。			
誰に対しても、自分から積極的に挨拶をしている。			
自分の考えを周りの人に正確に伝えるために、話し方の基本を身に付けている。			

「心身の健康」

学校が抱える課題の複雑化・困難化に伴い、教員の勤務時間の長さや精神疾患による休職者の増加が指摘されています。充実した教員生活を送るための基盤は、心身の健康です。心身ともによりよい状態で子どもたちと向き合うことで、教育の効果も一層高まります。

基盤形成期

～

資質・能力発展期

指標

自他のワーク・ライフ・バランスを図り、心身の健康の維持・増進に努める。

教員の仕事は多忙であるため、仕事と生活が両立しにくい現実があります。やりがいや充実感を感じながら、日々の仕事と向き合うとともに、家庭生活の充実や自己啓発等に掛ける時間も大切です。限られた時間の中で効率よく仕事を進め、心身の健康の維持・増進に努めることが求められています。また、よりよい職場環境づくりのために、同僚の心身の健康にも気を配る必要があります。

[具体的な姿]

- 毎日の業務内容を明確にしたり、その日の退勤時刻を設定したりするなど、計画的に仕事を進めている。
- 健康の維持・増進のため、適切な運動、食事、休養、睡眠を十分にとっている。
- 適切に年休を取得するなど、家族や友人と過ごす時間や趣味に費やす時間を確保し、心身ともにリフレッシュしている。
- 同僚の仕事の状況にも気を配り、進んで声を掛けたり、助力したりする。
- 悩みを一人で抱え込まず、悩んでいる分野に精通している同僚に相談を持ちかけるなど、解決に向けて取り組んでいる。



◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項目	月日 /	月日 /	月日 /
健康の維持・増進を図り、教員としての仕事と、プライベートを充実させている。			
計画的に時間を使い、能率的・効率的に仕事を進めている。			
同僚の様子に気を配り、協力して仕事を進めている。			

「省察力」

教員として成長し続けるためには、学び続ける向上心を持つとともに、自らを振り返り、課題を明確にし、自己の成長に向けた手立ての構築につながる力が必要です。日々の教育実践や教員としての在り方について深く顧みて、成果や課題を分析し、キャリアステージに応じた適切な目標を設定していくことが求められます。

基盤形成期

指標

日々の実践を振り返り、課題を明確にし、その解決に取り組む。

授業実践や児童生徒との接し方など、日々の教育実践について振り返る時間を持つことが大切です。教員としての成長を図るためには、客観的に自己の実践を分析し、他者の意見を取り入れながら、自分が今後取り組むべき課題を明確にして、最適な目標を設定し、次の実践に取り組むことが必要です。このようなサイクルを基盤形成期の間に身に付けることが、教員としての持続的な成長につながります。

[具体的な姿]

- 教科指導や生徒指導等についてよりよい取組ができるよう、日々の教育実践を振り返ることを習慣化している。
- 公開授業での評価や各種アンケート等を踏まえ、自己の授業実践や学級経営を客観的に分析し、その成果と課題について明確化している。
- 振り返りを踏まえた目標設定を行い、課題と目標を意識して教育実践を行っている。
- 自己分析や目標の設定をする際に、先輩教員などからの助言やその取組を参考にしたり、同僚と意見交換を行ったりしている。



◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項目	月日 /	月日 /	月日 /
日々の授業や児童生徒との接し方について、振り返る時間を意識的に確保している。			
自己の教育実践を客観的に分析し、その成果や課題を明確にしている。			
先輩教員などの取組を参考にしながら、自己の課題を踏まえた目標設定を行っている。			


「教科等指導力」

教科とは教育の根本目的をもとにして、社会の要求を考え、そこから設定した教育目標に達するための多面的な内容をその性質によって分類し、いくつかのまとまりを作ったものです。教科は、学校教育の基本的な要素ですから、教科等指導力は、教育の目標を達成するための基本と言えます。

基盤形成期

指標	児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に努める。
-----------	----------------------------------

「主体的・対話的で深い学び」とは学習指導要領で示された、資質・能力を育成するための授業改善の視点です。児童生徒が、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにする態度を育てるもので、常に心掛けるべきものです。

<p>[具体的な姿]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業の最初に明確な学習課題を提示し、児童生徒に学習のめあてを分かりやすく示している。 ○ 個人、ペア、グループ、全体など学習形態を工夫し、対話の生まれる学習活動を展開するとともに、適切な言葉掛けや、支援を工夫している。 ○ 児童生徒が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章にまとめたり、発表したりする授業を展開している。 ○ 単元等のまとまりを見通した学びを意識し、教師が教える場面と子どもが考える場面を意識的に設定している。 ○ 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れ、児童生徒が学習したことを実生活と結びつけたり、自分の成長を自覚したりする工夫をしている。 ○ よりよい授業を実践するために、「授業ノート」を作り、授業後に反省点や改善点を記入し、常に振り返りを行っている。
--	--

◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項 目	月日 /	月日 /	月日 /
主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善の視点について理解している。			
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた教材研究を行い、授業を工夫している。			
主体的・対話的で深い学びの実現のため、自分の授業を振り返っている。			

「ICT活用能力」

学習指導要領において、「情報活用能力」が学習の基盤となる資質・能力の一つとして明確に位置付けられました。この情報活用能力の育成を図るため、各学校においてコンピュータ等の情報手段を適切に活用した学習活動を充実することや、校務の効率化に向け、情報手段を活用することが求められており、教員のICT活用能力の向上が重要な課題となっています。

基盤形成期

～ 資質・能力向上期

指標

ICT機器を活用して主体的・対話的で深い学びの実現に努める。

教科指導等におけるICT機器の活用は、児童生徒の学習への興味・関心を高めるとともに、分かりやすい授業を実現していく上でより効果的であり、主体的・対話的で深い学びにつながるものと期待できます。

[具体的な姿]

- 教育効果をあげるには、どの場面でどのようにICT機器を活用すればよいのか計画を立てている。
- 学習に対する児童生徒の興味・関心を高めるために、ICT機器を活用して資料などを提示している。
- 児童生徒がICT機器を活用して、自分の考えを分かりやすく発表したり表現したりできるように指導している。
- ICT機器の活用について、自らの実践事例や同僚の実践事例を共有し、授業等に生かしている。
- 児童生徒が情報社会の一員としての自覚を持ち、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりできるように指導している。



◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項目	月日 /	月日 /	月日 /
ICT機器を積極的に活用しながら、主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善を行っている。			
ICT機器を活用した実践事例を蓄積し、教師相互でそれらを共有している。			
情報社会における問題など、最新の情報収集に努め、児童生徒の指導に生かしている。			


「学級経営力」

学級経営とは、学校の教育目標・学年目標を受けた学級目標を日々の具体的な実践を通して実現していく学級担任の意図的、計画的、継続的な営みです。そして、究極的には、一人一人の子ども自己実現を目指すものです。全ての子どもが生き生きと目を輝かせて活動し、満足感や充実感を味わえる支持的風土作りをしていくことが強く求められています。

基盤形成期

指標	児童生徒相互の好ましい人間関係づくりを行う。
-----------	-------------------------------

学級集団づくりとは、偶然の出会いで形成された形式的集団を望ましい集団に育てていくことです。そのために、学級の組織を整え、どの児童生徒にも出番を保障します。また、全ての児童生徒が一体感を味わえる支持的風土を醸成します。そのことが、児童生徒相互、児童生徒と教師の人間関係をより望ましいものへと高め、学級の集団化を促します。

	<p>【具体的な姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ どの児童生徒に対しても、自分の大切さや他の人の大切さを認めることができるように指導している。 ○ 児童生徒理解に努め、児童生徒に出番を与えられるように、当番活動を工夫したり、児童生徒の創意を生かした活動を設定したりしている。 ○ みんなが参加できるグループ活動を設定したり、アイデアを生かして楽しい話し合い活動を行ったりしている。 ○ 同僚のよいところを手本として、それを学級経営に生かしている。 ○ 保護者との信頼関係づくりに向けて、学級通信を定期的に発行するなど、日頃から家庭とコミュニケーションを図っている。
---	--

◇自分の姿を振り返って

〔A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない〕

項 目	月日 /	月日 /	月日 /
児童生徒の人権を大切にし、公平で受容的な態度で子どもに接している。			
児童生徒理解に努め、様々な活動場面で児童生徒の出番を保障したり創意工夫を生かしたりしている。			
児童生徒同士が互いに認め合い、協力することができるような学級の人間関係づくりを行っている。			

「生徒指導力・教育相談力」

生徒指導は、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的な資質や行動力を高めることを目指して行います。また、教育相談は、児童生徒それぞれの発達に即して、自己理解を深めさせ、人格の成長への援助を図ります。生徒指導力や教育相談力を身に付けることは、児童生徒に自己実現を図っていくための自己指導能力の育成につながると考えます。

基盤形成期

指標

児童生徒の発するサインを見逃すことなく対応する。

問題を抱えている児童生徒は何らかのサインを出しています。欠席や遅刻早退が急に多くなったり、授業中にぼんやりしたりと、学校で見られるサインにはいろいろあります。このような子どもが発するSOSを見逃さず、対処することにより、大きな問題への発展を未然に防ぐことができます。

〔具体的な姿〕



- 朝の会やSHR、授業等において、児童生徒の表情や態度が普段と変わっていないか観察している。
- 急に遅刻や欠席が多くなったり、宿題をしてこなくなったり、保健室に行く回数が増えたりしている児童生徒はいないか確認している。
- クラス内などに見られるグループのメンバー構成に変化があるか、孤立している児童生徒はいないか確認している。
- 児童生徒から相談しやすい雰囲気醸成するために、日頃から積極的に児童生徒へ声を掛けている。
- 児童生徒が発する様々なサインに気付いたら、状況を把握するとともに、一人で抱え込まず、学年主任等に相談し、協力して対応している。

◇自分の姿を振り返って

〔A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない〕

項目	月日 /	月日 /	月日 /
児童生徒の表情や行動の変化を確認している。			
グループのメンバー構成など、クラス内の人間関係の変化を把握している。			
日頃から、積極的に児童生徒への声掛けを行っている。			

「特別支援教育実践力」

障がいのある児童生徒の生活や学習上の困難を改善又は克服するためには、インクルーシブ教育システムの考え方を理解し、適切な指導及び必要な支援をできることが求められます。また、障がい者理解を推進するために、校内外で組織的・計画的に対応する力を身に付けることも重要です。

基盤形成期

指標

支援が必要な児童生徒の特性を理解し、適切に対応する。

障がいのある児童生徒を含めた、特別な教育的支援が必要な児童生徒の困っている背景を理解し、その困っていることに対して、児童生徒の気持ちを大切にしながら、適切な指導・必要な支援を行うことが必要です。

【具体的な姿】

- 集団に参加できない等の場合は、その時のエピソードを記録し、そこから見えてくる困難さを理解して、本人と話をしながら適切に対応している。
- 学習場面において、集中が持続しにくい様子が見られる場合は、興味を持てるよう教材等を工夫したり、見通しが持てるよう活動の予告をしたりしている。
- 相手に自分のしたいことを適切な表現で伝えることができないため、大人が寄り添って言葉を付け加えたり、事前に正しい言葉の使い方の練習をしたりしている。



◇自分の姿を振り返って

【A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない】

項目	月日 /	月日 /	月日 /
障がいのある児童生徒等の特性を理解している。			
障がいのある児童生徒等のニーズを把握して指導・支援ができている。			
障がいのある児童生徒等の気持ちに寄り添いながら指導・支援を進めている。			

「えひめ人材育成力」

愛媛県では、「愛媛の未来づくりプラン」において、4つの愛顔（えがお）づくりへの挑戦の一つとして、「未来を拓く豊かで多様な『人財』を“育む”」ことを挙げています。学校では、一人一人の児童生徒が愛媛の未来を担い、世界にも貢献できる「人財」となることを目指すことが求められています。

基盤形成期

～

資質・能力発展期

指標

ふるさと愛媛に誇りと愛着を持たせる教育の実現に努める。
国際的な視野を養うとともに、地域の課題に目を向け、愛媛の未来を拓く人材の育成に努める。

様々な教育活動を通して、児童生徒が愛媛のよさを理解し、愛媛に誇りを持つことができるような工夫が必要です。また、グローバル化する社会で活躍する児童生徒の育成を図るとともに、地域のよさと課題を明確に捉え、地域のよさを伸ばし、課題を解決しようとする意欲的な態度を育むことが求められます。

[具体的な姿]

- 愛媛の風土、文化、歴史、産業等について、常に最新の情報を収集している。
- 愛媛のよさや課題について理解し、様々な学習活動や体験活動に生かしている。
- 様々な教育活動の中で、国際理解教育の視点を取り入れ、児童生徒の多様な価値観を尊重し合う態度の育成を図っている。
- 世界と地域のつながりなど、児童生徒が広い視野から地域のよさや課題を捉え、よりよい社会をつくろうとする実践的な態度の育成を図っている。



◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項目	月日 /	月日 /	月日 /
愛媛の風土や文化、新しい情報などに関心を持ち続け、教育活動に生かしている。			
様々な教育活動の中で、多様な価値観を尊重し合う態度を育成している。			
児童生徒が国際的な視点から地域のよさや課題を捉え、持続可能な社会をつくろうとする態度の育成に取り組んでいる。			

「組織貢献力」

組織には、共通目標（組織目標）、協働意識（貢献意識）、コミュニケーションが必要です。学校の教育目標を達成するためには、それぞれの教員が専門性を高め、組織の一員としてその役割に応じて活躍することが求められています。一人一人が組織貢献力を身に付けることにより、一人では達成できない共通の目標を実現することが可能になります。

基盤形成期

指標

組織の一員として、与えられた役割を確実に果たす。

学校は、教育目標の実現に向けて組織で動くものであるということを踏まえ、校務分掌上自分が担当する役割を把握し、その業務内容について十分に理解することが基本です。その上で、業務を遂行するための具体的な計画を立てることや、業務遂行上必要なスキルを積極的に身に付けようとするのが大切です。

[具体的な姿]

- 校務分掌上の自分の役割を把握し、その業務内容を理解している。
- 学校の教育目標や重点目標等を踏まえ、自分の業務がどの目標の達成につながるものであるか理解している。
- 自分の業務について、過去の資料の確認や先輩教員への相談を行い、その手順や注意点を把握している。
- 業務遂行のための具体的な計画を立て、確実に実行している。
- 業務遂行上必要な能力の向上を図るため、積極的に研修している。



◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項目	月日 /	月日 /	月日 /
学校の教育目標や重点目標を達成するという視点で、自らの業務内容を捉えている。			
過去の資料の確認や先輩教員への相談など、業務を確実に遂行するための情報収集を行っている。			
自分の業務を遂行するための具体的な計画を立て、実行している。			

「学校安全の意識・危機管理能力」

学校の教育活動等においては、児童生徒等の安全の確保が保障されることが、最優先される前提です。全ての学校において、管理職のリーダーシップの下、学校安全に関する組織的な取組を推進するとともに、全ての教職員が、各キャリアステージにおいて必要に応じた学校安全に関する資質・能力を身に付ける必要があります。

基盤形成期

～

資質・能力向上期

指標

**危険を予測し、未然防止に努める。
緊急時に適切な対応をする。**

事件・事故災害の発生時に、他の教員と連携して適切に行動するために、自校の危機管理マニュアルに基づき、自己の役割と学校全体の対応方針について、普段からよく理解しておく必要があります。また、事故事例や学校安全に関する資料の活用や、先輩教員の緊急時の対応経験を通して、安全教育の在り方について積極的に学ぶなど、教育活動時の適切な安全管理や児童生徒に対する安全教育を行っていくことが求められます。

[具体的な姿]

- 自校の危機管理マニュアルを熟読し、緊急時における連絡体制や自らの役割について理解するとともに、先輩教員から緊急時の対応方法について積極的に学ぶ。
- 事件・事故災害が発生した場合には、危機管理マニュアルに基づき、他の教職員と連携して迅速に対応する。
- 授業や部活動など、様々な教育活動において、事故事例等に基づき予測し、危険の除去に努めるとともに、緊急時の対応について事前に想定するなど、児童生徒の安全の確保に留意する。
- 児童生徒に対して、学校生活や日常生活に潜む危険性や事件・事故災害が発生した場合の行動の在り方を考えさせるなど、安全に対して主体的に行動できる資質・能力を育む安全教育を実践する。



◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項目	月日 /	月日 /	月日 /
自校の危機管理マニュアルに基づく、緊急時における連絡体制や自らの役割について理解している。			
様々な教育活動における事故等の可能性について予測し、児童生徒の安全の確保のための具体的な対策を講じている。			
児童生徒が安全に対して主体的に行動できる資質・能力を育む安全教育を実践している。			


「協働性・同僚性」

学校における複雑かつ多様な課題に対応するためには、職場の同僚間のチームワークを高め、組織的かつ効果的な対応を行う必要があります。そのため教員は、共通の目的に向かって課題を解決するために協働することが重要です。さらに、協働性を高めていくためには、よりよい職場の人間関係や仲間意識を築き、同僚性を発揮していくことが必要不可欠です。

基盤形成期

指標	報告・連絡・相談を行い、助力を得て課題を解決する。
-----------	----------------------------------

日々の業務を行う上で「報告・連絡・相談」をすることは基本です。若いうちは、初めての仕事や、自分一人では判断に迷うような仕事に直面することがあります。そんな時は先輩教員に助けを求めたり、意見を聞いたりすることのできる勇気が必要です。自分だけで抱え込まずに、先輩教員の助けを借りながら、一つずつ自分の課題を解決していく姿勢が大切です。

<p>〔具体的な姿〕</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒に関するトラブル等があった場合、経緯や事実を正確に学年主任や関係者等に知らせている。 ○ 保護者対応等で、自分が判断に迷うときは、一人で判断せず、先輩教員に参考意見やアドバイスを聞いた上で対応している。 ○ 自分のミスや失敗を隠したりせず、悪いニュースこそ早めに伝え、早期解決に向けて取り組んでいる。 ○ 自分に任された仕事の進捗状況について、主任等に定期的に中間報告を行っている。 ○ 指示を受けるときは最後までよく聞き、必要ならばメモを取っている。 ○ 指示の内容が理解不十分な場合は、曖昧なままにせず説明を求めている。
--	---

◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項 目	月日 /	月日 /	月日 /
「報告・連絡・相談」を定期的に行い、学年部や学校全体に自分の持っている情報を提供している。			
分からないときや、困ったときは、自分だけで抱え込まずに先輩教員にアドバイスを求めている。			
指示を受け、手立てを打つ場合は、指示内容を正確に理解し、問題の早期解決に向けて協力しながら対応している。			

「対人関係力」

学校においては、児童生徒や保護者だけでなく、同僚や地域の人々まで広く信頼される教員が求められています。そのためには、自らの考えや学校の方針等を分かりやすく説明するとともに、相手の考えを正確に理解し、組織としてのよりよい方向性を見出すための意思疎通を行っていくことが大切です。

基盤形成期

指標 気持ちのよい挨拶を交わし、対話に努める。

信頼される教員、親しみがある教員になるためには、まず気持ちのよい挨拶が基本であり、相手と会話をするときの態度や視線、心構えも大切な要素です。教員としての言動は、学校を代表するものとして受け取られます。常に、謙虚で明るい姿勢を保ち、接遇マナーを意識することで、児童生徒や保護者からの信頼を得られるとともに同僚教員との円滑な人間関係の構築にもつながります。

- [具体的な姿]
- 誰に対しても、自分から笑顔で挨拶や声掛けを行い、周りの人が話し掛けやすい雰囲気を作る。
 - 話を聞くときは、顔と体を相手に向け、目線は同じ高さにして、素直な気持ちで、話の腰を折らず最後までじっくりと聞く。
 - 日常の会話では、温かい言葉を添えて、よりよい人間関係を構築するためのコミュニケーションを図る。
 - 日々の生活においては、「ありがとうございます」などの感謝の気持ちを素直に言葉で表すことを習慣化する。
 - 研修に積極的に参加し、「接遇」「アンガーマネジメント」のスキルを身に付けて、円滑な人間関係の構築のために活用する。



◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項目	月日 /	月日 /	月日 /
児童生徒の一人一人と気持ちよい挨拶を交わしながら、その日の様子を確認している。			
会話をする場合、要所要所で相手の目をしっかり見て、適切な相槌を打っている。			
児童生徒の前で、「ありがとう」「どういたしまして」などの感謝の言葉を明確に表している。			

「地域と連携・協働する力」

学校が抱える課題が複雑化・困難化する中、学校は「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、地域との連携を一層進めていくとともに、地域においても、子どもたちの成長を支える活動に、より主体的に参画していくことが必要です。「地域とともにある学校」への転換を目指していく上で、地域のニーズを把握し、積極的に関わっていくなど地域と連携・協働していくことが求められます。

基盤形成期

指標

地域との連携・協働の必要性について理解する。

地域との連携を進めることは、学校が抱える困難な課題に地域と一体となって取り組み、解決し、子どもたちの生きる力を育むことにつながります。そのため一人一人の教員が学校と家庭・地域との連携・協働の必要性を理解し、自校においてどのような活動があるのかを知り、参加することが求められます。

[具体的な姿]



- 地域の歴史や自然、産業、文化などについて理解している。
- 教科や特別活動等の学習活動の中で、家庭・地域と連携している教育活動にどのようなものがあるかを知っている。
- 地域住民と協力して実施する行事や防災訓練、高齢者との交流など、地域と関わりのある活動に参加している。
- 遠足等の校外活動を含む様々な教育活動を通して、地域のよさを児童生徒に伝えている。

◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項目	月日 /	月日 /	月日 /
地域の特色について理解し、地域に関連する教育活動にどのようなものがあるのかを知っている。			
学校・家庭・地域が連携・協働した教育活動に参加している。			
日々の生活の様々な場面で、地域のよさを児童生徒に伝えている。			